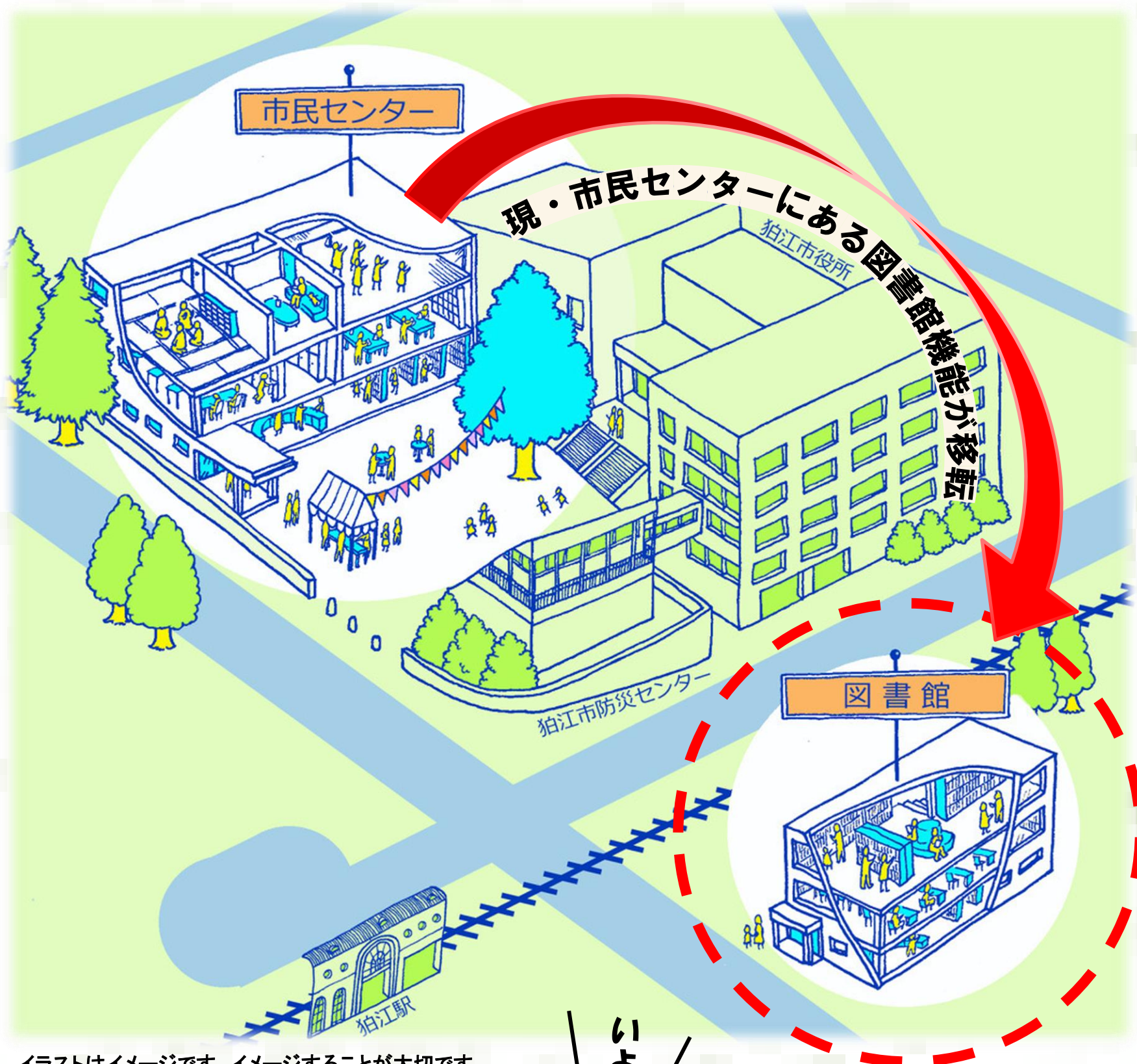




こまえに **新しい図書館** を創る



イラストはイメージです。イメージすることが大切です。

いよいよ

ワクワク計画が始まります！

様々な経緯を経て、いよいよ市民待望の公共施設 リニューアル、リノベーションが始まります。



広報こまえ 11月1日号

左のイラスト、広報こまえ 11月1日号で、「市民センターを改修し、新図書館を新たに整備します」という記事をご覧になられた方も多いと思います。この市民センターと図書館を新しくしていこうというお話しは、市民の皆様にとっても、大変関心の高いテーマだと思います。ようやく、過去8年間にわたる様々な経緯(※)を経て、本年8月に狛江市から「狛江市民センター等改修基本方針」が示されたこととなります。

私は本年度議会において、この新しい図書館等のあるべき姿を3回連続で取り上げました。その中で、市から、この「改修計画」が示された意味を次の3点に集約させていただいております。

- 1 市の財政状況は、以前よりは好転したが、まだまだ苦しい。
- 2 市民アンケート等で施設の改修要望は非常に強い。
- 3 計画スタートから8年が経過し、もはや先送りできない。

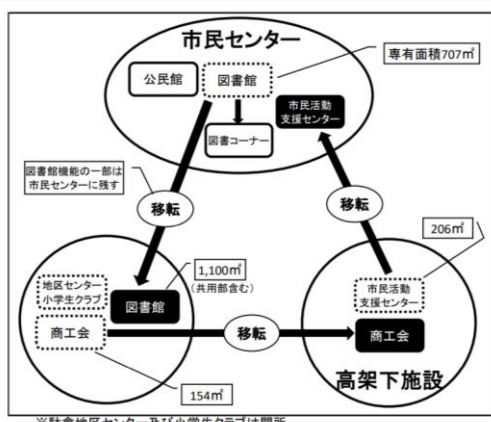


(※)経緯の詳細は「狛江市民センター改修基本方針」に掲載されています。

狛江市の改修基本方針を簡単に言うと、現在の「中央図書館」「狛江市商工会」「市民活動支援センター」で“三角トレード”が行われます。

ものすごく簡単に言いますと、そういうこととなりますが、詳しくは下図、「狛江市民センター等改修基本方針」からの抜粋をご覧ください。

図の中で、上部が市民センターです。狛江市中央図書館は、現在、市民センターの中にありますが、専有面積707㎡です。一部の図書館機能は市民センターに残りますが、



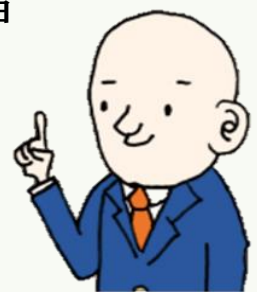
狛江市民センター改修等基本方針 8Pから

ほとんど大部分は「商工会」がある場所に新築の建物として図書館が建設され、その場所に移転します。同様に、現在の「商工会」機能は、

小田急線高架下にある「市民活動支援センター」の場所に。また、地域活動支援センターの機能は新しくリノベーションされる市民センターに移るとい、いわば「三角トレード」の計画です。

さて、新しい図書館は決して大規模な施設にはなりません。しかしながら、半径2kmのコンパクトシティ狛江市には近隣自治体並みの蔵書数は必要ないことを私は以前からお話ししてきました。その代わり、居心地の良い(民間の)カフェであったり、「児童書・絵本コーナー」は、一般書と離れた場所に設置すべきであったり、そうしたことを今後も市に働きかけていきます。

何よりも、この計画にはまだまだ余白の部分がたくさんあります。今後は、コンサル会社のノウハウを活かした市民参加ワークショップ等の機会が予定されています。市民の皆様のアイディアが必要となります。この機会にぜひ「ワクワクする計画」に参加いただき



皆さんから「自分たちの図書館」のアイデアを！ 今後のワークショップ等、奮ってご参加ください。